

はしがき

■編集の趣旨

本書は、「集中2週間完成」シリーズの一冊として、古典文法の基礎を一通り学びながら、基本的な古文の読解力を養うことを目指して編集しました。高校一年生を対象にしましたが、古文の苦手な二年生以上の諸君にも有益です。

■本書の特長

- 1 各学習日とも見開き二ページに収め、学習の区切りがつきやすいように配慮しました。
- 2 問題の冒頭に「ポイント」として、当日の問題を解くときに、また、その学習項目全体を理解する上で役立つアドバイスをコメントしました。
- 3 問題本文（古文）は、できるだけ平易で親しみやすい内容のものを中心に収録しました。
- 4 本文読解の手助けとなるように、問題本文の下段には「語注」を載せ、本文の左側には必要に応じて口語訳も付しました。また、学習項目とは少々離れますが、本文の内容に関連するエピソードやマメ知識を「語注」のあとに記しました。
- 5 設問は、当日の学習項目に対応する文法関連の問題を中心にすえ、語彙・内容把握などの問題も適宜収録しました。また、直接解答が書き込める解答欄も設けました。

6 設問の下段には、古文の苦手な諸君に配慮して設問の「ヒント」をできるだけ載せました。また、当日の学習項目に関する基本事項や本文に関わるさまざまな問題を「基本チェック問題」として併せて収録しました。

7 冒頭の下ページ分は、「入門編」と題して古文学習のオリエンテーションとなる解説を交えた問題の形をとっています。巻末の「付録」は、まとめとして利用してください。

8 自己診断テストとして使用する場合のことを考え、制限時間と配点を示しました。

9 くわしく丁寧な「別冊解答書」を用意しました。

● 第1日～第14日の各学習日には見開き二ページを当てました。なお、「入門編」と「付録」の解答は、巻末に収めました。

● 「解答」のほかに、設問の「解説」、本文の「語句・文法」についての説明、当日の学習項目中の重要点をまとめた「学習のポイント」を収録しました。

● さらに口語訳と併せて、すべての用言および助動詞と一部の助詞などについて品詞分解を施した本文も収録しました。

古語辞典や古典文法の本を手にして、チャレンジしてみましょう。

目次

入門編	1	身近な古典	4
入門編	2	歴史的かなづかいの読み方と表記・口語文法との違い	6
第1日	宇治拾遺物語	動詞の活用① — 変格活用（力変・ナ変・サ変・ラ変）・下二段活用	8
第2日	伊曾保物語	動詞の活用② — 四段・上一段・上二段・下二段活用	10
第3日	方丈記	動詞の活用③ — その種類・活用形の見分け方	12
第4日	花月草紙	形容詞・形容動詞	14
第5日	発心集	用言の練習	16
第6日	大鏡	助動詞① — 受身・尊敬・可能・自発	18
第7日	徒然草	助動詞② — 打消・過去・完了	20
第8日	雲萍雑誌	助動詞③ — 推量・打消推量・伝聞・推定	22
第9日	平家物語	助動詞④ — 断定・希望・比況・上代の助動詞	24
第10日	十訓抄	助動詞の練習	26
第11日	更級日記	助詞	28
第12日	竹取物語	副詞・連体詞	30
第13日	宇治拾遺物語	敬語法の基本 — 尊敬語・謙讓語・丁寧語の基本的な使い方	32
第14日	枕草子	古文の読み方	34
付録	1	古語の知識	36
付録	2	今物語（総合問題）	38



月 日 曜日

【ポイント】 変格活用と下一段活用に属する動詞は数が限られており、活用も一種類だけです。完全暗記してしまいましょう。

今は昔、貫之が土佐守になりて、下りてありけるほどに、任果ての年、七つ八つばかりの子の、えもいはずをかしげなるを、限りなくかなしうしけるが、とかく煩ひて、失せにければ、泣き惑ひて、病づくばかり思ひこがるほどに、月ごろになりぬれば、かくてのみあるべきことかは、上りなんと思ふに、児のここに、何とありしやなど、思ひ出でられて、いみじう悲しかりければ、柱に書きつけける。

都へと思ふにつけて悲しきは帰らぬ人のあればなりけり
都に帰らぬ人につけても悲しいのは
 と書きつけたりける歌なん、今までありける。

問1 次の語群から変格活用と下一段活用を選び、その活用表を作りなさい。(4点×5)

死ぬ 見る す 寝 蹴る はべり 悔ゆ 来 経 買ふ

活用の種類	語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ行変格活用								
ナ行変格活用								
ラ行変格活用								
サ行変格活用								
カ行下一段活用								

問2 傍線A～Eはラ行変格活用の動詞だが、それぞれの活用形は何形か書きなさい。

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

(3点×5)

問3 本文中からサ行変格活用の動詞を一つそのままの形で抜き出さない。(3点)

問4 傍線1「えもいはずをかしげなる」を現代かなづかいで書き直しなさい。(4点)

問5 傍線2「泣き惑ひて」の主語は誰か。本文中の語で答えなさい。(4点)

問6 本文中の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(4点)

ア 貫之が都を離れる悲しみを描いたものである。
 イ 貫之が土佐を訪れる悲しみを描いたものである。
 ウ 子どもをなくした親の悲しみを描いたものである。
 エ 親をなくした子どもの悲しみを描いたものである。

【語注】 貫之「紀貫之のこと。平安時代初期の歌人。『古今和歌集』の編纂に携わり、『土佐日記』を書いた。
 土佐守「土佐国(現在の高知県)の長官。任果ての年「国守としての四年の任期を終えた年。月ごろ「いく月。これより長ければ「年ごろ」短ければ「日ごろ」となる。

◆紀貫之は、承平五年(九三五)に土佐国の国守の任を終えて帰京しました。後年その時の様子を女性に仮託して書いたものが『土佐日記』です。「旅・親心・歌」が中心的な話題になっており、平安時代の日記文学の先駆けとして高く評価されています。
 ◆「今は昔…」という書き出しは、説話のきまつた書き出しで、「むかしむかしある所に…」という昔話と同じように、読者を作品世界に誘う働きをしています。

【ヒント】

問1 変格活用と下一段活用に属する単語は次のように限られている。
 ・カ行変格活用「来」一語だけ。
 ・ナ行変格活用「死ぬ」「去ぬ」の二語だけ。
 ・ラ行変格活用「あり」「をり」「はべり」「いますがり」の四語だけ。
 ・サ行変格活用「す」とその複合語。
 ・下一段活用「カ行下一段活用の「蹴る」一語だけ。

問2 ラ変は、連用形と終止形、已然形と命令形がそれぞれ同じ形になる。下の語の接続で判断する。過去の助動詞(「き」「けり」)が接続するときは連用形になる。

問3 サ変は複合動詞にも注意する。

問6 『土佐日記』のテーマを考えてみる。

【基本チェック問題】

① 次の古語に当たる現代語を書きなさい。
 す () () 来 () ()
 あり () () 去ぬ () ()

② 地方官を決める儀式を何というか。
 () ()